

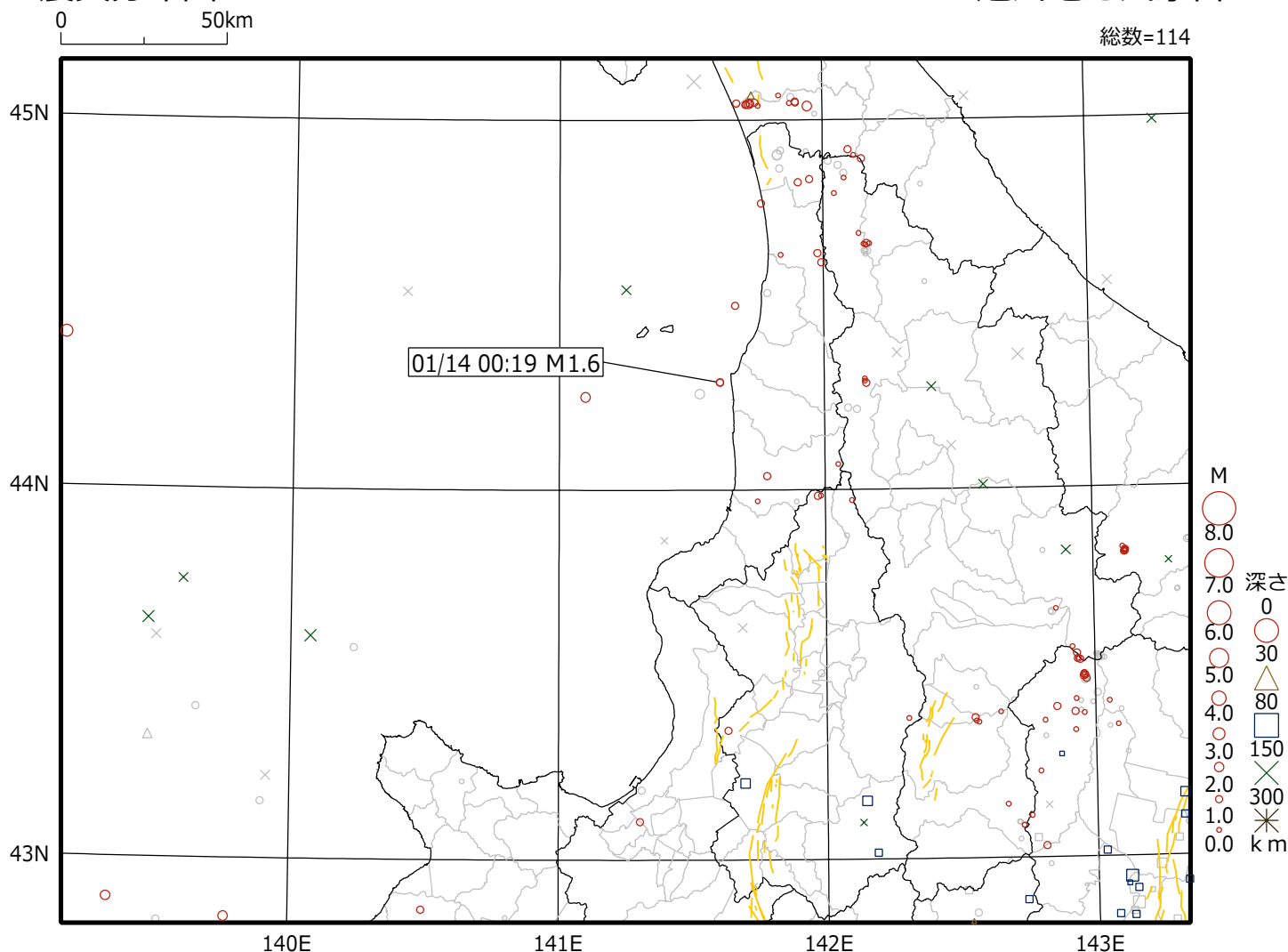
上川・留萌地方の地震活動図

2024年1月1日～2024年1月31日

震央分布図

旭川地方気象台

総数=114



地震概況（2024年1月）

この期間、上川・留萌地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回（12月は1回）でした（「上川・留萌地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

1日16時10分、石川県能登地方の地震（M7.6、深さ16km、震央分布図の範囲外）により、16時22分に北海道日本海沿岸北部に津波注意報を発表し、2日10時00分に解除しました。なお、留萌で観測された津波の高さの最大は25cmでした（次頁参照）。

14日00時19分、北海道西方沖の地震（M1.6、ごく浅い）により、苫前町で震度1を観測しました。

令和6年能登半島地震について（北海道内への影響）

1. 概要

令和6年1月1日 16時10分、石川県能登地方で発生した地震（M7.6、深さ16km）により、石川県志賀町と輪島市で震度7を観測したほか、北海道でも震度1を観測しました。この地震により、北海道日本海沿岸（北部、南部）、北海道太平洋沿岸西部に津波注意報を発表しました。また、北海道太平洋沿岸中部、オホーツク海沿岸に津波予報（若干の海面変動、被害の心配なし）を発表しました。

津波警報・注意報の種類と発表基準

	予想される高さ
大津波警報	3m ~
津波警報	1m ~ 3m
津波注意報	20cm ~ 1m

道内では瀬棚港および奥尻島奥尻港で54cm、岩内港で49cmなどの津波を観測しました。

2. 津波注意報の発表状況

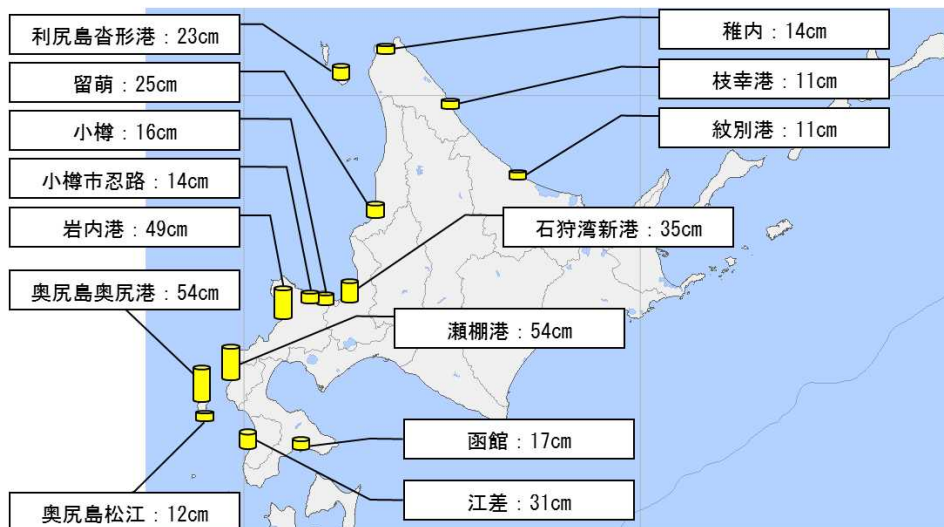
	北海道 日本海沿岸北部	北海道 日本海沿岸南部	北海道 太平洋沿岸西部
1/1 16:12		津波注意報発表	
16:22	津波注意報発表	↓	津波注意報発表
	↓	↓	↓
1/2 10:00	解除	解除	解除

北海道の津波予報区



道内の津波注意報は約18時間にわたり継続しました。これは日本海で発生する津波が、閉じた海域でユーラシア大陸と日本の沿岸で津波が反射するなどのため、減衰しづらかったことに対応したものです。

3. 津波の観測状況（暫定値）

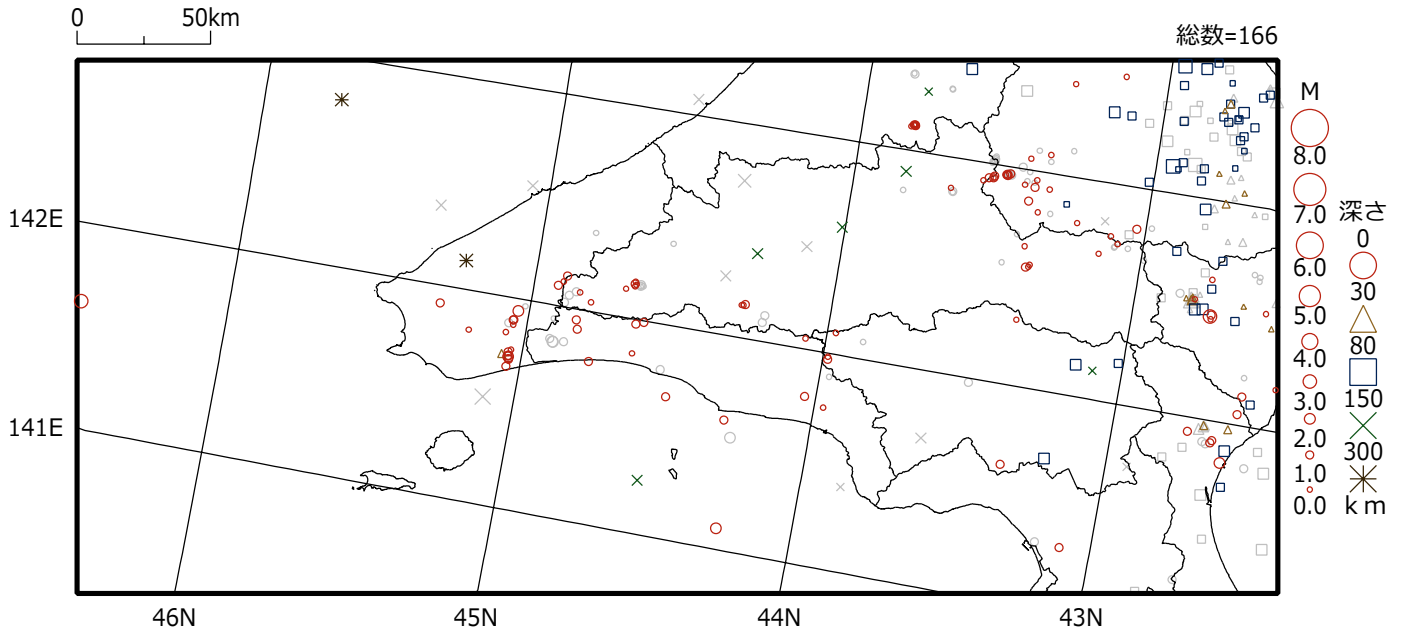


津波は日本海側を中心に観測されましたが、宗谷海峡を回り込んでオホーツク海側でも若干の海面変動が観測されました。また、地震発生から長時間経ってから津波の最大波を観測した観測点もあります。岩内港では1月2日00時26分、稚内では2日09時27分に最大波を観測しました。なお、道内で観測された津波は、いずれも津波注意報の発表基準の範囲以下でした。

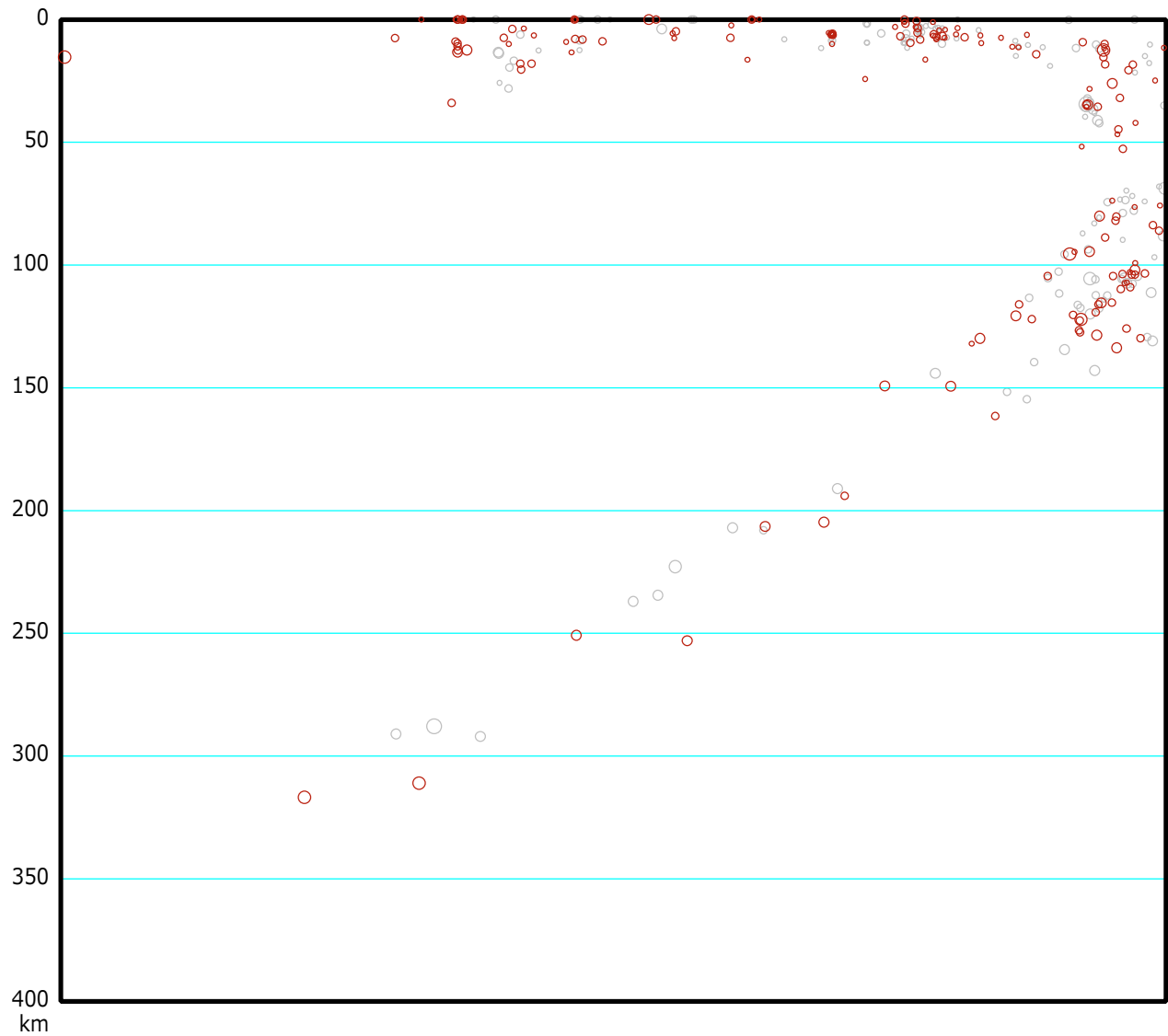
※データは暫定値であり、今後変更されることがあります。

2024年1月1日~2024年1月31日

震央分布図



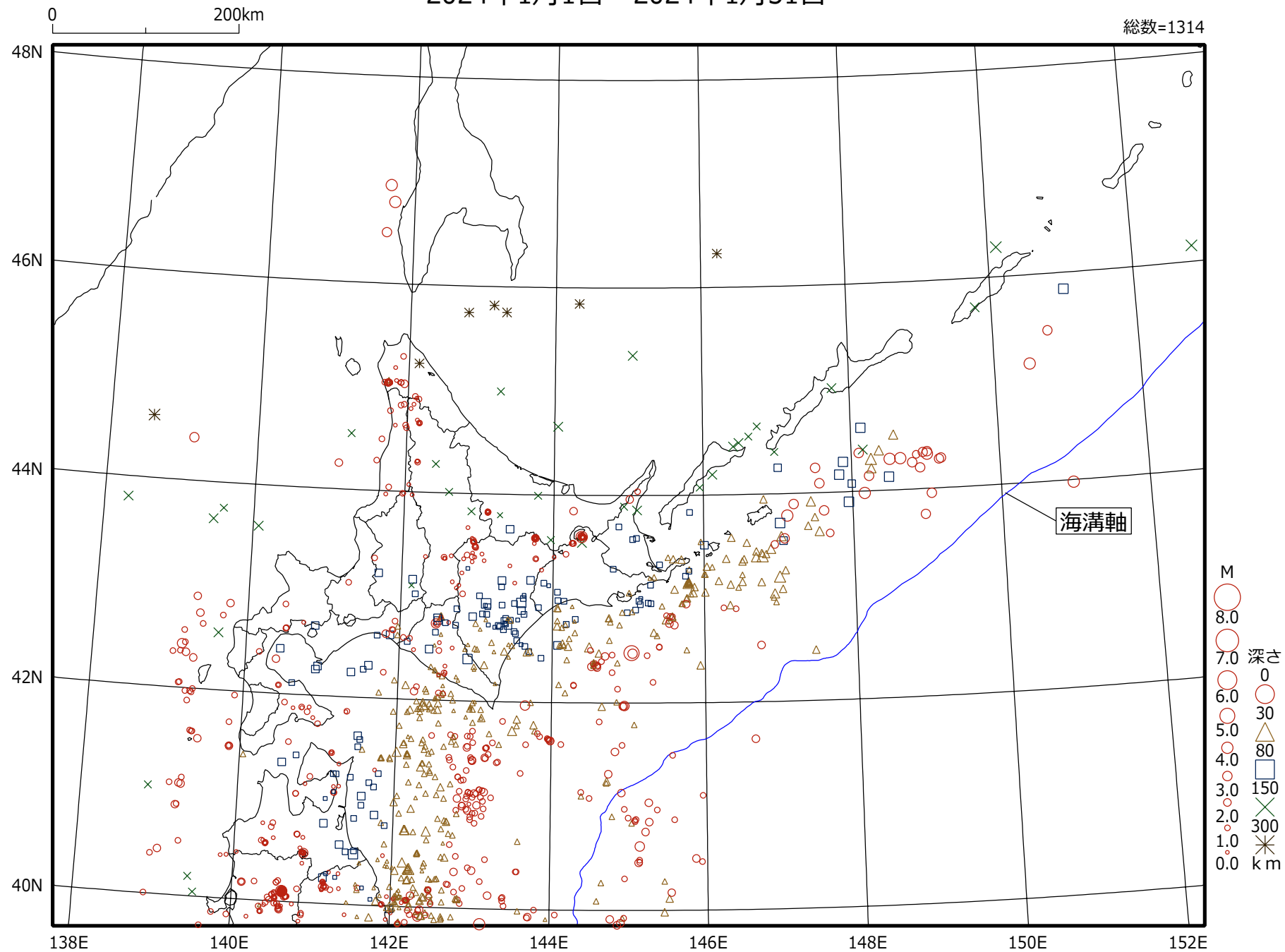
断面図



北海道の地震活動図

2024年1月1日～2024年1月31日

震央分布図



上川・留萌地方で震度 1 以上を観測した地震の表（2024年1月）

年	月	日	時	分	震央地名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
		地方	震度		震度観測点名				
2024年	1月	14日	00時	19分	北海道西方沖	44° 17.4' N	141° 36.3' E	0 km	M1.6
		留萌地方	震度 1		苫前町旭* (06)				

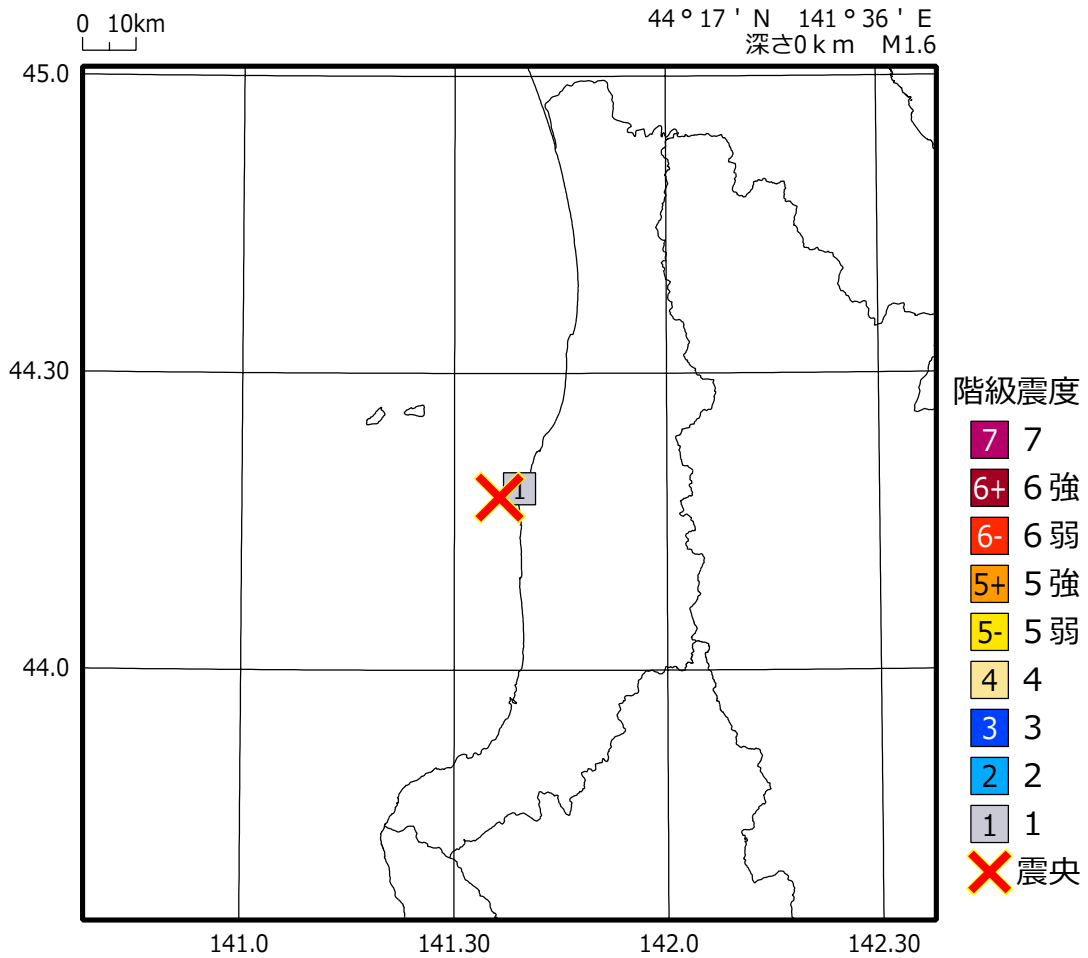
* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2024年 1月14日00時19分 北海道西方沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～長周期地震動～

●長周期地震動とは？

地震が起きると様々な周期（揺れが1往復するのにかかる時間）を持つ揺れ（地震動）が発生します。その中でも、規模の大きな地震が発生したときに生じる、周期の長いゆっくりとした大きな地震動のことを「長周期地震動」といいます。長周期地震動には、「高層ビルを長時間にわたって大きく揺らす」、「遠くまで伝わりやすい」等の性質があります（図1）。

切迫する日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震等が発生した場合、震源から遠く離れた地域であっても、長周期地震動により高層ビルや免震構造の建物では被害のおそれがあります。



図1 長周期地震動の概要と特徴

●長周期地震動でどんなことが起こるのか？

図2は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の際の東京都内のビル内の様子です。このように、長周期地震動によりビルの高層階は大きく揺れ、低層階よりも家具類の転倒などの被害が発生しやすくなります。この他にも、天井の落下やスプリンクラーの故障、エレベーターの障害などの被害が発生しました。



2階



24階

図2 東京都内の同じビル内での被害の違い（工学院大学提供）

●地震が発生したらどうする？

高層ビルなどでは、地表の揺れが収まっても、長周期地震動による大きなゆっくりとした揺れが10分以上続く場合もあります。長周期地震動も通常の地震の揺れも、身を守る行動は同じです。大きな揺れや強い揺れを感じたときには、家具類や照明器具などが「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。

●長周期地震動への備え

高層ビルや免震構造^{*}の建物などは長周期地震動の影響を受けやすいので、背の高い家具やコピー機など、大きく重い物は倒れたり移動したりしないよう固定を徹底しましょう。しかし、大きな揺れで固定が外れてしまうことも考えられるので、寝室に背の高い家具は置かないなど、家具類の配置にも気をつけましょう。また、物をあまり置かない安全なスペースを確保し、地震が起きたらそこに逃げ込むなど、日頃から家庭や職場で地震が起きた時の対応を考えておくことが大切です。

^{*}免震構造は短い周期の揺れを吸収し揺れを弱める効果がある一方、長い周期の揺れに対しては免震の効果小さくなる場合があります。

●長周期地震動階級について

気象庁では、地震発生後直ちに震度に関する情報を発表していますが、震度は地表面付近の比較的周期が短い揺れを対象とした指標であるため、長周期地震動による高層ビル高層階の揺れの程度を表現するのに十分ではありません。そこで、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度を基に長周期地震動による揺れの大きさを4つの階級に区分した「長周期地震動階級」という指標で表すこととしています（図3）。

●長周期地震動に関する情報

長周期地震動に関する情報としては、緊急地震速報で揺れの予想を、「長周期地震動に関する観測情報」で観測結果をお伝えします。緊急地震速報（警報）は、震度5弱以上を予想した場合に加え、長周期地震動階級3以上を予想した場合に発表します。緊急地震速報を見聞きしたら、あわてず、まず身の安全を守る行動をとって下さい。また、実際に観測した長周期地震動階級などは、地震発生から10分程度で「長周期地震動に関する観測情報」をオンライン配信するとともに気象庁ホームページ（<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>）でも公開しています（図4）。



図3 長周期地震動階級

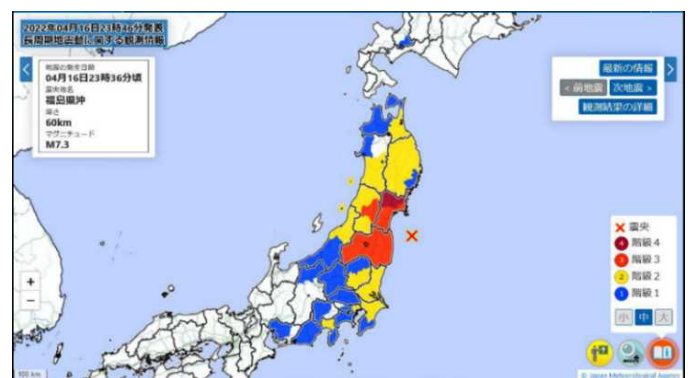


図4 長周期地震動観測情報の例
(気象庁ホームページ)